

# 序章 策定の趣旨

---

序章 策定の趣旨	1章 デジタル化の動向	2章 デジタル化の現状	3章 デジタル活用に係る主要な課題
4章 デジタル活用の基本理念	5章 デジタル活用の方向性(柱)	6章 デジタル活用の基本方針	7章 デジタル活用の推進に向けて

## 1 背景

### 社会課題の深刻化

- 少子化・高齢化による人口構造の更なる変化
- 生産年齢人口の減少による経済規模の縮小
- 温暖化に伴う気候変動による影響

### 地域課題の顕在化

- 新型コロナウイルス感染症の拡大による地域経済への影響
- アフターコロナを見据えた社会への対応
- 地域コミュニティの希薄化

### 「デジタル技術」の浸透と発展

- デジタルが社会・経済インフラとして定着
- 官民による多様なデジタルサービスの展開
- AIなど新たな技術の活用・普及
- インターネットが生活のインフラとして定着（通信遮断等による生活への影響の深刻化）

### 国の動向

- 「デジタル社会形成基本法」を制定し、デジタルを適正かつ効果的に活用するデジタル社会を目指す
- デジタル社会の実現に向け、デジタル実装を通じて地方の課題を解決する「デジタル田園都市国家構想」を策定

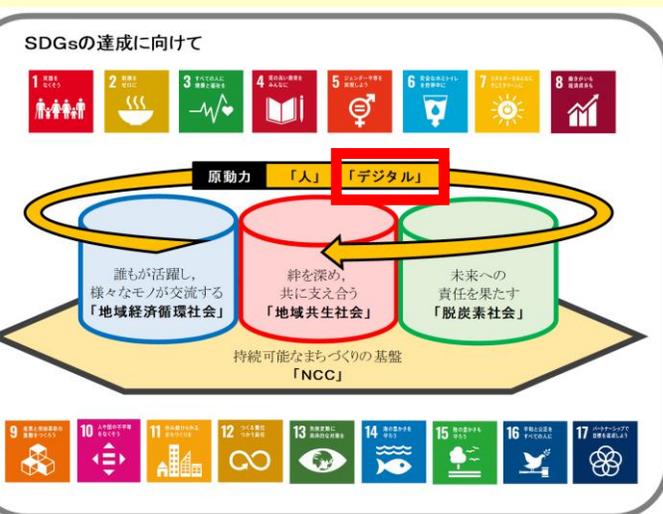
**「デジタル」は、市民生活の質の向上や多様化・複雑化する地域課題等の解決に資する「鍵（手段）」であるとともに、新しい付加価値を生み出す「源泉」でもあります。今後、より一層「デジタル」を活用し、官民ともにDXの実現を目指すことが求められています。**

序章 策定の趣旨	1章 デジタル化の動向	2章 デジタル化の現状	3章 デジタル活用に係る主要な課題
4章 デジタル活用の基本理念	5章 デジタル活用の方向性(柱)	6章 デジタル活用の基本方針	7章 デジタル活用の推進に向けて

## 1 背景

### 本市の目指す「スーパースマートシティ」の実現に向け、 原動力として「デジタル」を積極的に活用していく。

本市は、人口減少、少子・超高齢社会においても、子どもから高齢者まで誰もが豊かで便利に安心して暮らすことができ、夢や希望がかなうまち、そして、人や企業から選ばれ、100年先も繁栄し続けていくまち「スーパースマートシティ」の実現を目指しています。



「スーパースマートシティ」の実現やSDGsの達成に向け、「ネットワーク型コンパクトシティ(NCC)」を基盤としながら、「地域共生社会」、「地域経済循環社会」、「脱炭素社会」の「3つの社会」が発展していくための原動力(手段)として、「デジタル」を積極的に活用していくこととしています。

【スーパースマートシティうつのみや特設サイト】



(URL: <https://ssc.city.utsunomiya.tochigi.jp>)

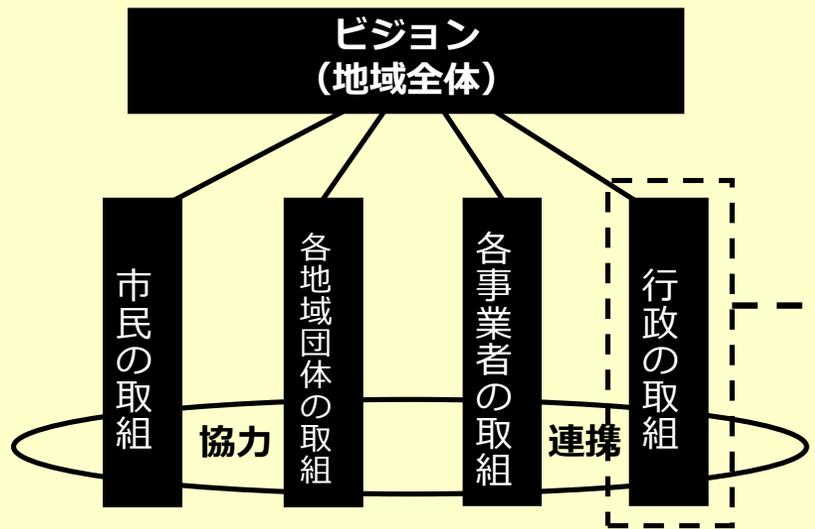
## 2 策定の目的

スーパースマートシティの実現に向け、デジタルを効果的に活用し、地域社会全体のデジタル化を推進していくためには、地域を構成する市民・事業者・地域活動団体・行政がそれぞれの立場でデジタル化に取り組み、互いに協力・連携していくことが重要であることから、地域の各主体とデジタル活用の理念や方向性を共有する「宇都宮市デジタル共創未来都市ビジョン」を策定します。

序章 策定の趣旨	1章 デジタル化の動向	2章 デジタル化の現状	3章 デジタル活用に係る主要な課題
4章 デジタル活用の基本理念	5章 デジタル活用の方向性(柱)	6章 デジタル活用の基本方針	7章 デジタル活用の推進に向けて

## 3 位置付け

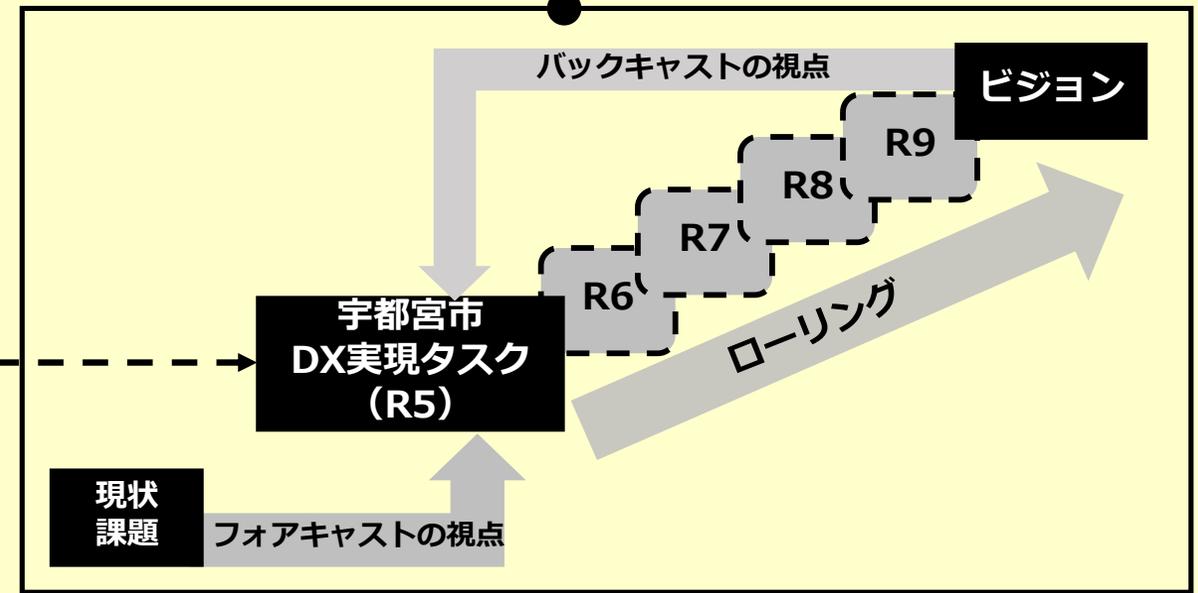
- 「スーパースマートシティ」の実現に向け、その「原動力」となる「デジタル」を総合的かつ計画的に推進するための計画（ビジョン・タスク）として策定
- 総務省が令和2年12月に策定した「自治体DX推進計画」に対応するとともに、官民データ活用推進基本法第9条第3項に規定する「官民データ活用の推進に関する施策についての基本的な計画」も兼ねるものとして策定



## 第6次宇都宮市総合計画

即す

## 宇都宮市デジタル共創未来都市ビジョン



## 4 期間

令和5年度から令和9年度までの5か年  
 ※国の政策や先端技術等の動向を踏まえ、必要に応じて見直しを行います。

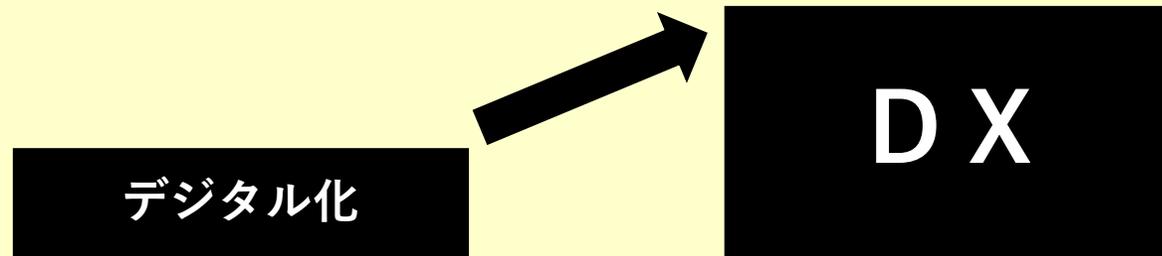
序章 策定の趣旨	1章 デジタル化の動向	2章 デジタル化の現状	3章 デジタル活用に係る主要な課題
4章 デジタル活用の基本理念	5章 デジタル活用の方向性(柱)	6章 デジタル活用の基本方針	7章 デジタル活用の推進に向けて

- 昨今、「デジタル・トランスフォーメーション」という概念が広く謳われています。「デジタル・トランスフォーメーション」は、「DT」ではなく、「DX」と略されますが、その理由は、英語のトランスフォーメーション(Transformation)の接続語「Trans」には、「横切って」等の意味があり、「cross=X(横断)」と同義であることから、英語圏では、一般的に「X」と略されるためです。
- 国においても、「自治体DX推進計画」において「ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること」と明記しており、社会全体のDXを求めています。
- 今後、デジタル活用を進めていく上では、「DX」と「デジタル化」のそれぞれの言葉がもつ意味の違いを認識していく必要があります。

**DXは、デジタル技術の活用により、業務の効率化等にとどまらず、手法や組織文化・風土を変革し、新たな価値を創造していくことを意味します。**



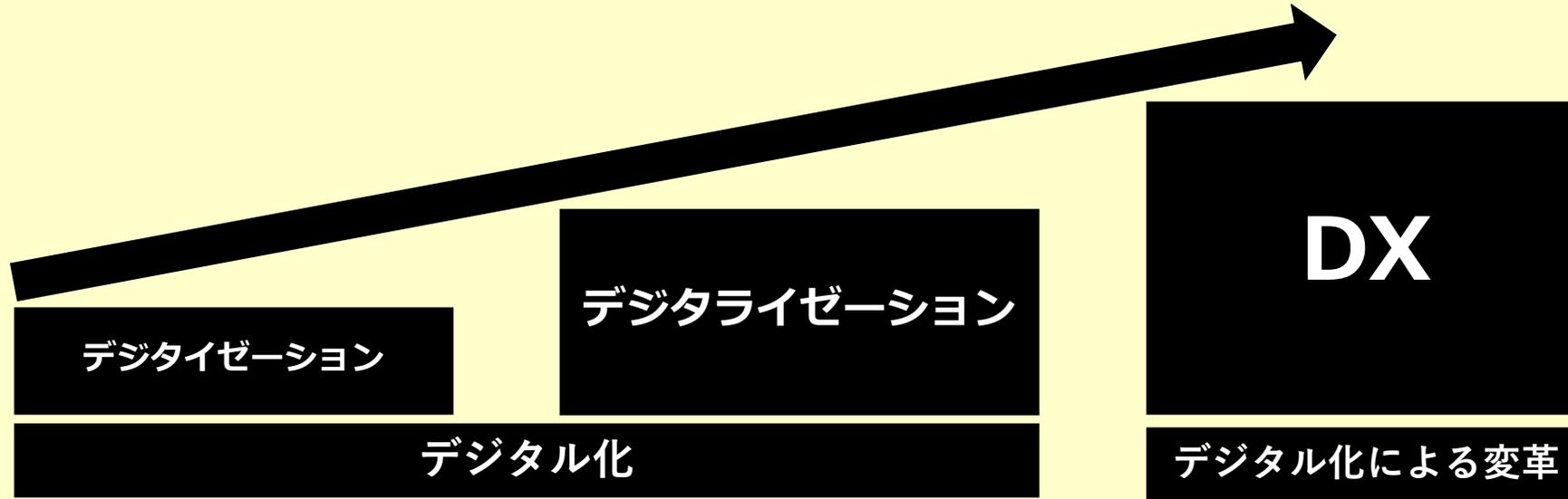
**DXの実現には、デジタル化による変化を浸透させつつ、段階を経ながらステップアップしていくことが必要です。**



序章 策定の趣旨	1章 デジタル化の動向	2章 デジタル化の現状	3章 デジタル活用に係る主要な課題
4章 デジタル活用の基本理念	5章 デジタル活用の方向性（柱）	6章 デジタル活用の基本方針	7章 デジタル活用の推進に向けて

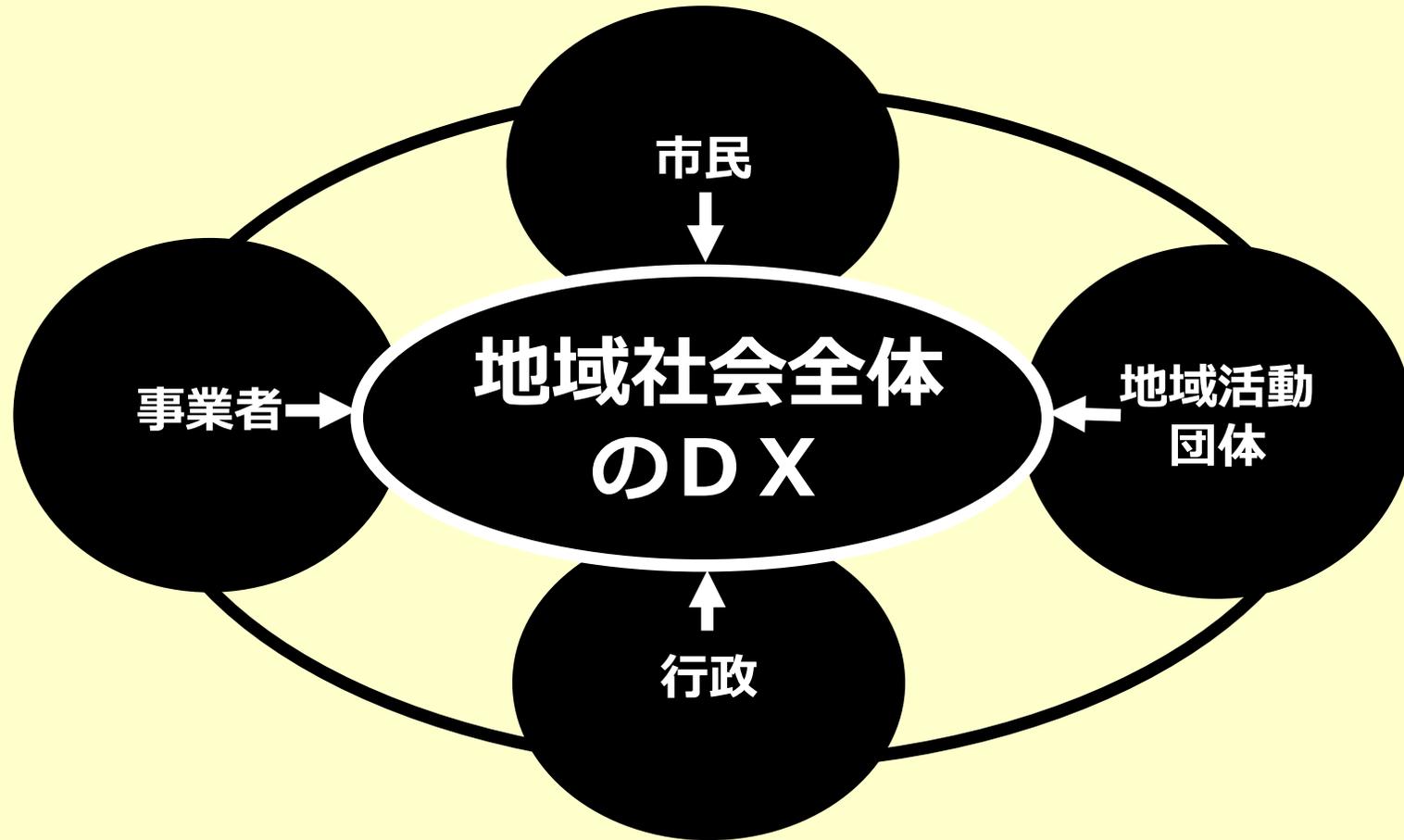
## DXに向けての3つの段階

いきなりDXに取り組むことは難しく、まずは、デジタル化に取り組んでいきましょう。「デジタル化」は「DX」への大きな一歩です。



DXに向けてのデジタル化には、従来のやり方（アナログ）を部分的にデジタル化していく「デジタルイゼーション」、組織の業務プロセス全体をデジタル化していく「デジタルライゼーション」、そして、デジタル技術の活用により組織文化や風土を変革し、新たな価値を創造していく「デジタル・トランスフォーメーション」の3つの段階があるといわれています。

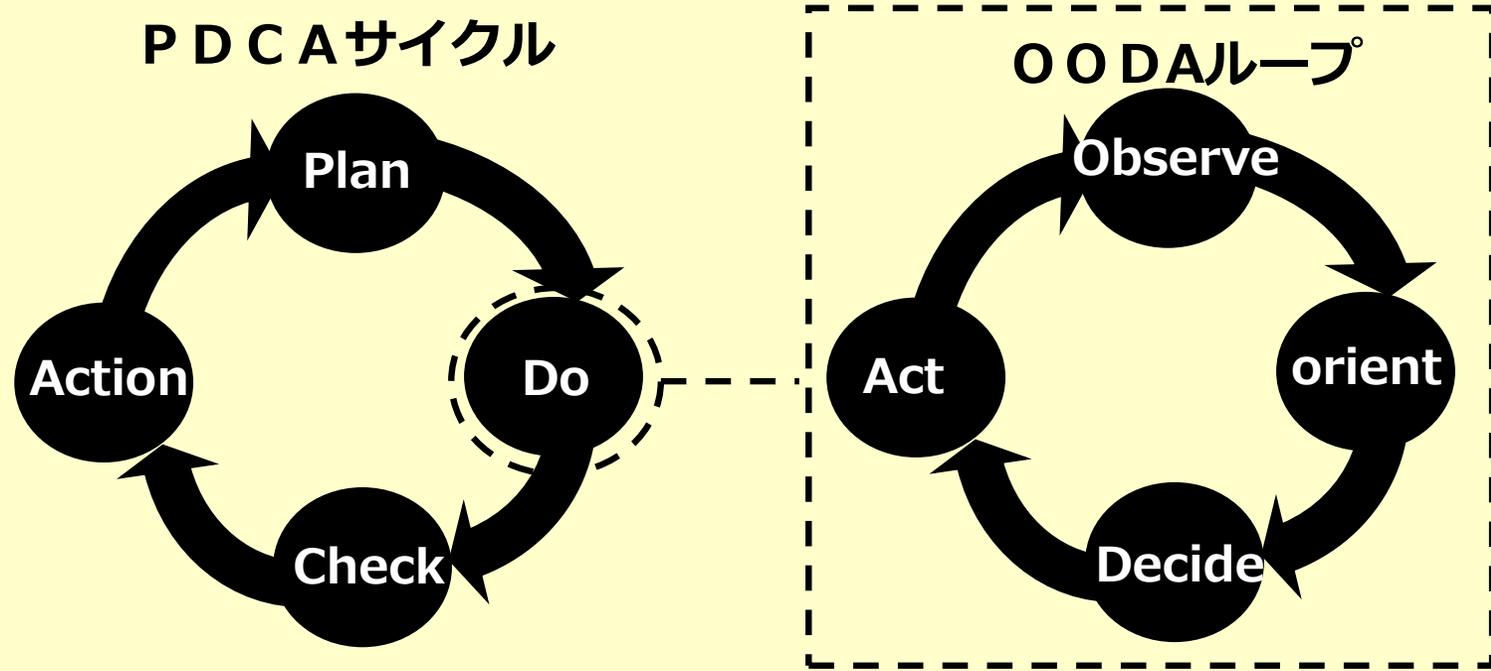
序章 策定の趣旨	1章 デジタル化の動向	2章 デジタル化の現状	3章 デジタル活用に係る主要な課題
4章 デジタル活用の基本理念	5章 デジタル活用の方向性（柱）	6章 デジタル活用の基本方針	7章 デジタル活用の推進に向けて



地域の各主体がそれぞれの状態に応じたデジタル化・DXを目指し、協力・連携しながら、足並みを揃えていくことで、その輪（取組）が広がり、地域社会全体のDXの実現につながります。

序章 策定の趣旨	1章 デジタル化の動向	2章 デジタル化の現状	3章 デジタル活用に係る主要な課題
4章 デジタル活用の基本理念	5章 デジタル活用の方向性(柱)	6章 デジタル活用の基本方針	7章 デジタル活用の推進に向けて

- デジタル化・DXを推進していくに当たっては、取組の進捗状況等を把握しながら見直しを進める「PDCAサイクル」を駆使し、適切にマネジメントしていくことで、実行性を確保する必要があります。
- ただし、進展の速いデジタル分野において、柔軟かつスピーディーな意思決定が求められる場合には、「OODAループ」の考え方の下、取組を進めていくことが有効とされています。（国の「自治体DX全体手順書」においても推奨）
- このようなことから、「PDCAサイクル」を基本としながら、デジタル分野の特性を踏まえ、柔軟かつスピーディーに対応ができる「OODAループ」を併用しながら進めていくことが大切です。



※「OODA」とは、「Observe（観察，情報収集）」、「Orient（状況，方向性判断）」、「Decide（意思決定）」、「Act（行動，実行）」の頭文字をつないだ言葉で、意思決定プロセスを理論化したものであり、スピーディーな意思決定を可能にします。